まちの名に歴史あり

問い合わせ　社会教育課文化財係（TEL 893・8111）

峡崖（かいがけ）

寺村から傍示へ上がる急な崖道です。現在は、寺村の住吉神社から急な尾根道を登りますが、室町時代以前は、その南側の谷を通っていたと考えられます。それは、前川の先で田の切れるところにある、通称「ごみの木地蔵」と呼ばれる室町時代の地蔵が理由です。

この地蔵は、現在の「かいがけの道」に正面を向いておらず、その前の谷の方を向いて立っているので、おそらく昔の道は、この谷を通っていたのではないでしょうか。

ごみの木地蔵

氷室（ひむろ）

一般に「氷室」とは冬に氷を作り、夏まで貯蔵しておく倉庫のことです。

傍示の村を少し東に上がったところに小高い丘があり、それを氷室と呼んでいます。

傍示は海抜250㍍くらいあり、冬は相当に寒くなります。そのため、氷室の西北側に穴を掘り、氷を入れておけば夏まで保存できそうな雰囲気があります。

また、傍示の八葉蓮華寺の山号も氷室山と言います。

昭和53年頃の氷室（傍示）

石ノ木（いしのき）

生駒山地は花崗岩地帯であるため、露出している大岩が多くあります。

そのため、磐船神社や星田妙見宮のご神体をはじめ、交野山の観音岩などの巨石信仰が見受けられます。傍示の石ノ木でも、露出した大岩が村人に畏怖の念を起こさせ、信仰の対象となったのかもしれません。

石ノ木のある場所で木を切ると、必ず腹痛をおこしたという昔話が傍示には残っています。

水神（すいじん）

寺村の東側の谷を上がって行くと、北浦に出ます。そこに水神の名がつく田が2か所ありました。どちらも水がよく湧き、よくたまる田だったそうです。

山の水がコンコンと湧き出ることにより、夏の日照りでも田に水が注がれ、農作物の豊かな実りが約束されることから、水の神への信仰が生まれたのでしょう。

水神への道（昭和49年頃）

また、山中にある傍示の集落では、地下から湧き出る水は、飲料水にもなっていました。人々の生活にとって欠かすことのできない神様をお祀りした祠がありましたが、現在ではなくなっています。

歴史探訪～寺地区～

と　き　6月28日（金）午前10時、いきいきランド交野集合

コース　交野車塚古墳群・山添家住宅（外からの見学）・住吉神社など

定　員　先着30人

申し込み・問い合わせ　6月3日（月）午前9時から社会教育課文化財係（TEL 893・8111）